

令和7年度 市長との対話集会（口名田地区）議事要旨

日 時：令和7年9月25日（木） 19時00分～20時30分

場 所：口名田コミュニティセンター

参加者：34名

テーマ：新幹線と共に歩む小浜市の将来像

1 参加者からの主な意見

(1) 新幹線駅周辺の整備

- ・駅周辺に商業施設を整備し、多くの人が集まれる賑わい拠点の創出。
- ・駅へのアクセスは、車だけでなく公共交通など多様な手段の確保が必要。
利用者向けの大規模な駐車場も必要。
- ・舞鶴市や滋賀県北部からの利用も見据えたアクセス環境の整備が必要。

(2) まちづくり・観光

- ・新駅周辺をあえて「住宅地」として開発し、京都・大阪への通勤・通学圏であることをアピール。
若者の地元定着と移住促進に繋がる可能性が向上。
- ・地域の歴史・文化（松上げ、六斎念佛など）や、豊かな自然を活かしたまちづくりの検討。
- ・単に名所を巡るだけでなく、歴史やテーマに沿った「ストーリー性のある体験コース」が必要。
- ・川遊びなどを楽しむための、トイレや更衣室の整備。
- ・地域外の人も参加できる「参加型」の祭りへの転換が必要。

(3) 産業・定住促進

- ・深刻な人口減少に歯止めをかけるため、積極的な企業誘致を要望。
- ・空き家を活用し、移住者がスムーズに地域に溶け込めるような支援策の強化。
- ・高齢者の移動手段を確保するため、バス停から遠い住民も利用しやすいデマンド交通の導入。
- ・新幹線開業に合わせた、市内の道路ネットワークの整備。
- ・地域活性化の起爆剤として、温泉の掘削を検討。

2 市長からの主な回答

(1) 新幹線駅周辺の整備

- ・新駅周辺エリアの基本計画策定に既に着手している。商業施設など賑わい創出への期待は大きいと認識しており、20年後の未来も見据えながら計画を進める。
- ・新駅周辺を「住宅地」として開発するアイデアは非常に斬新で面白い。通勤圏としての魅力を高めることで、人口増に繋がった他市の事例もあるため、選択肢として検討する。
- ・小浜が近隣都市からの人や物を集める「ハブ（中継点）」となる視点を持ち、広域的なアクセス整備を検討する。

(2) まちづくり・観光について

- ・「ストーリー性のある体験コース」という意見に強く共感。市のブランド戦略として、歴史・文化・食を組み合わせ、付加価値の高い観光を推進していく。
- ・市民がまず自分たちのまちに満足し、誇りを持つことが移住定住の鍵。川辺の更衣室のような、市民の満足度を高める小規模な施設整備についても関係機関と共有したい。

- ・祭りの「参加型」への転換は素晴らしいアイデア。地域の祭りや運動会など、様々なイベントをよりオープンにし、地域内外の交流を促進する。

(3) 産業・定住促進

- ・現在進めている平野区の県営産業団地を核とし、積極的に企業誘致活動を展開する。
- ・東小浜駅周辺を、企業誘致だけでなく、若者が起業に挑戦できるシェアオフィス等を備えたエリアとして整備することも検討したい。

(4) 生活環境

- ・高齢者の移動支援として、ワンコイン（500円）で市街地まで移動できるタクシーの実証実験を9月議会に提案し承認いただいた。今後、実現の可能性について検証を行っていく。
- ・温泉については、市民からの要望が非常に多いことを認識している。県も関連調査費を計上しており、市としても引き続き県に働きかけていく。